

課題

地元「石巻」をテーマにして、それぞれの校種において、教科書と関連付けて「石巻」を英語で発信することで、相手意識・目的意識のある言語活動を中心とした英語学習を創造する。



具体的な取組と工夫

協力校(4校): 和瀨小学校、河南東中学校、桃生小学校、桃生中学校

■石巻地区の小中高で連携したカリキュラムを作成

- (1)「石巻CAN-DOリスト」(Can-Doリスト形式の学習到達目標を、小3から高3年までの10年間をつなげたもの)を3校種で共同作成
- (2)「石巻CAN-DOリスト」の発信技能のDescriptorに合わせて、石巻地域について発信する言語活動を小中高それぞれの校種で実施

■石巻地区の小中高の英語教育の実践の共有と改善に向けての協議

- (1)ICTを活用し、協力校と日常的に授業やパフォーマンステスト等を共有するとともに、その内容について協議
- (2)対面での授業見学を、小中高それぞれの校種で1回実施

■同校種、異校種間の子ども同士が英語でやり取りをする交流を実施

小学校と中学校、中学校同士、小学校と高校、中学校と高校で交流

■公開授業及び外部専門機関と連携した英語指導力向上に係る研修会を実施

講師:朝日大学 教授 亀谷 みゆき 先生

演題:学習指導要領と英語教育における小中高連携Ⅱ～豊かな言語活動と思考力・判断力・表現力の育成～

■先進的英語教育を行っている帝京大学小学校および新渡戸文化中学校高等学校を視察



成果

- 学習指導要領をベースに「石巻CAN-DOリスト」を作成したことで、地域における体系的かつ段階的な指導の理解や洞察が深まった。
- 校種を超えた授業共有は、それぞれが様々な指導方法を学ぶ機会となると共に小中高接続を意識した授業改善の推進に繋がった。また各校種で言語活動を充実させるために、「目的・場面・状況」を意識的に設定できるようになった。
- 高校生が小中学校を訪問し、英語の授業における授業アシスタントとして小中学生と交流を行うことで、児童生徒の英語学習への動機付けの向上や学習を振り返る機会に繋がった。
- 授業共有や高校生の学校訪問等の取り組みを見た中学校のALTが、本校の英語教育に興味をもち、指導の充実に参加するため本校の授業視察に訪れた。
- 先進校視察を通して、学習の個別最適化についての知見を深めることができた。

課題及び改善案

■課題

- ・「石巻CAN-DOリスト」のさらなる活用(指導・評価・生徒の学習の振り返り等)及び、その過程で内容を洗練させていくこと。
- ・協力校にとどまらず、石巻地区および宮城県内の学校へ、本事業の実践で得た学びを波及させること。

■改善案

- ・「石巻CAN-DOリスト」の活用状況の共有や、改善の為の継続的な協議。
- ・それぞれの校種における横のつながりの中での積極的な情報発信。